

株式会社ステムセル研究所

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月13日

01 – 決算概況

02 – 成長戦略

決算概況

01. 戦略テーマ別の進捗および成果

国内基盤強化

- 進捗**
- ▶ 新プラン「HOPECELL」の推進およびキャンペーン施策の実施リアル／オンライン両マーケティングチャネルでの集客強化
 - ▶ 保管細胞の活用を見据えたサービス展開および研究開発を推進
- 成果**
- ▶ キャンペーン効果による第4四半期の資料請求数の増加
 - ▶ さい帯血を用いた自閉症スペクトラム障害(ASD)に対する臨床研究において投与を実施
 - ▶ さい帯血を用いた自家iPS細胞の製造・保管プロセス開発に関する共同研究を開始
 - ▶ ファミリー上清®の申込数および投与数の増加

東南アジア展開の本格化

- 進捗**
- ▶ 戦略的パートナーとの合弁契約を締結
 - ▶ シンガポール子会社における人員採用、CPC物件契約および工事開始
- 成果**
- ▶ 東南アジア展開に向けた**事業基盤の構築が進展し**、本格展開に向けた準備が整う

経営基盤および株主還元の強化

- ▶ 連結決算への移行および株主優待制度の導入

02. 課題と対策

売上高は過去最高を更新するも、先行投資の影響により各段階利益は計画未達

- ▶ シンガポール事業の本格稼働に向けた人員等の体制構築および積極的な賃上げ、経営体制強化により先行的に販管費が増加
- ▶ マーケティングの最適化および営業体制の再設計（基幹医療機関を起点としたネットワーク強化）により成約率を改善し、収益性の向上を図る

(単位：百万円)

	2026/03期	構成比
売上高	2,811	100.0%
売上総利益	1,712	60.9%
販管費及び一般管理費	1,509	53.7%
営業利益	202	7.2%
営業外損益	14	0.5%
経常利益	217	7.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	155	5.5%
一株当たり 当期純利益(円)	15.44	—

前期比

当期第2四半期より連結決算へ移行したことによる、前期連結数値との比較なし

営業利益

中長期的な成長に向けた先行投資によるコスト増
(先行投資 内訳)

- ・シンガポール事業開始に向けた人員等の体制構築強化
競合他社の動向等も踏まえ、今後の市場開拓に向けた重要な投資局面と位置付け、先行的な投資を実施
- ・積極的な賃上げ、経営体制強化

シンガポール事業開始は2027/03期を予定
中長期的な成長を担う中核事業として展開

(単位：百万円)

	2025/03期 (単体)	構成比	2026/03期 (単体)	構成比	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	2,679	100.0%	2,806	100.0%	127	4.8%
売上総利益	1,692	63.2%	1,707	60.8%	15	0.9%
販売費及び 一般管理費	1,273	47.5%	1,444	51.5%	170	13.4%
営業利益	418	15.6%	263	9.4%	△155	△37.1%
営業外損益	13	0.5%	14	0.5%	4	45.0%
経常利益	428	16.0%	278	9.9%	△150	△35.2%
特別損益	136	5.1%	0	0.0%	△136	△99.8%
税引前 当期純利益	565	21.1%	278	9.9%	△287	△50.8%
当期純利益	385	14.4%	192	6.8%	△193	△50.2%

売上高

当第4四半期(1月～3月)も第3四半期に引き続き、四半期として**過去最高**

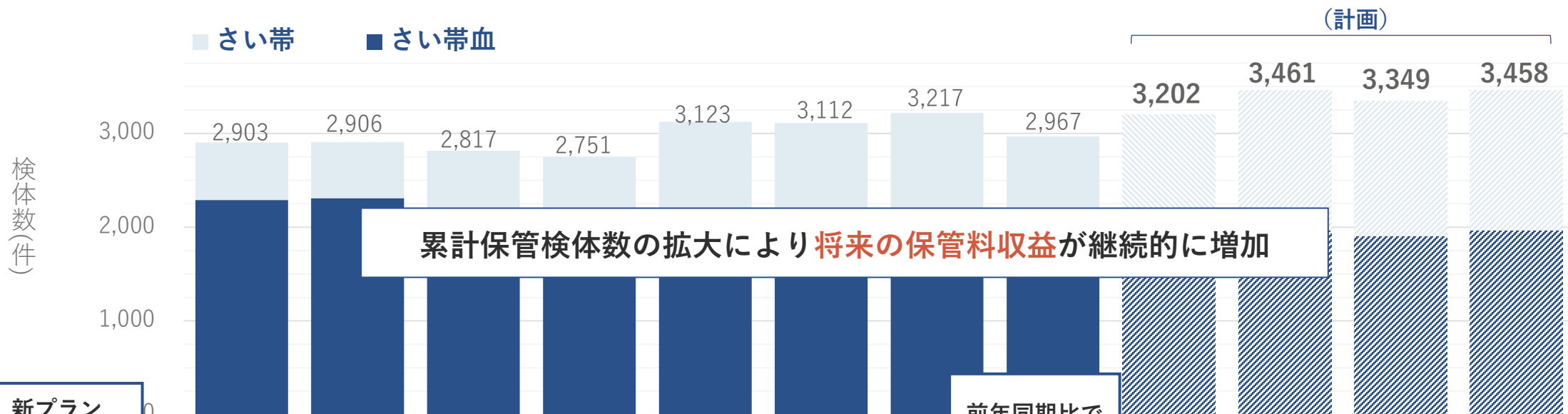
営業利益

積極的な賃上げおよび経営体制強化に伴う販管費増加により減益

当期純利益

前期において株式売却特別利益を計上したことによるもの

成約率の改善により収益性の向上を図る



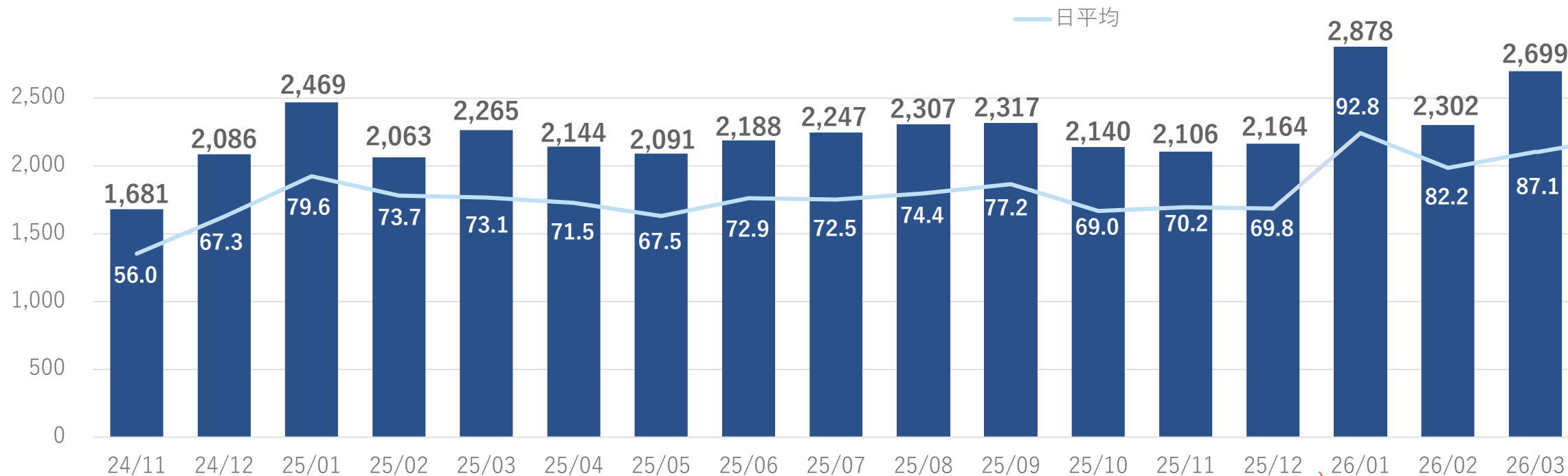
新プラン
HOPECELL
リリース

前年同期比で
大きく増加

	2025/03期				2026/03期				2027/03期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
合計 保管検体数(件)	2,903	2,906	2,817	2,751	3,123	3,112	3,217	2,967	3,202	3,461	3,349	3,458
	11,377 (対前期比+8.1%)				12,419 (対前期比+9.2%)				13,470 (対前期比+8.5%)			
さい帯血 保管検体数(件)	2,291	2,309	2,103	1,761	1,843	1,856	1,938	1,720	1,821	1,968	1,905	1,967
	合計	8,464 (対前期比△1.1%)			合計	7,357 (対前期比△13.1%)			合計	7,661 (対前期比+4.1%)		
さい帯 保管検体数(件)	612	597	714	990	1,280	1,256	1,279	1,247	1,381	1,493	1,444	1,491
	合計	2,913 (対前期比+48.0%)			合計	5,062 (対前期比+73.8%)			合計	5,809 (対前期比+14.8%)		

資料請求数

※該当月に当社サービスに興味を持ち、資料を請求した見込み顧客の総数



訴求点の全面見直し

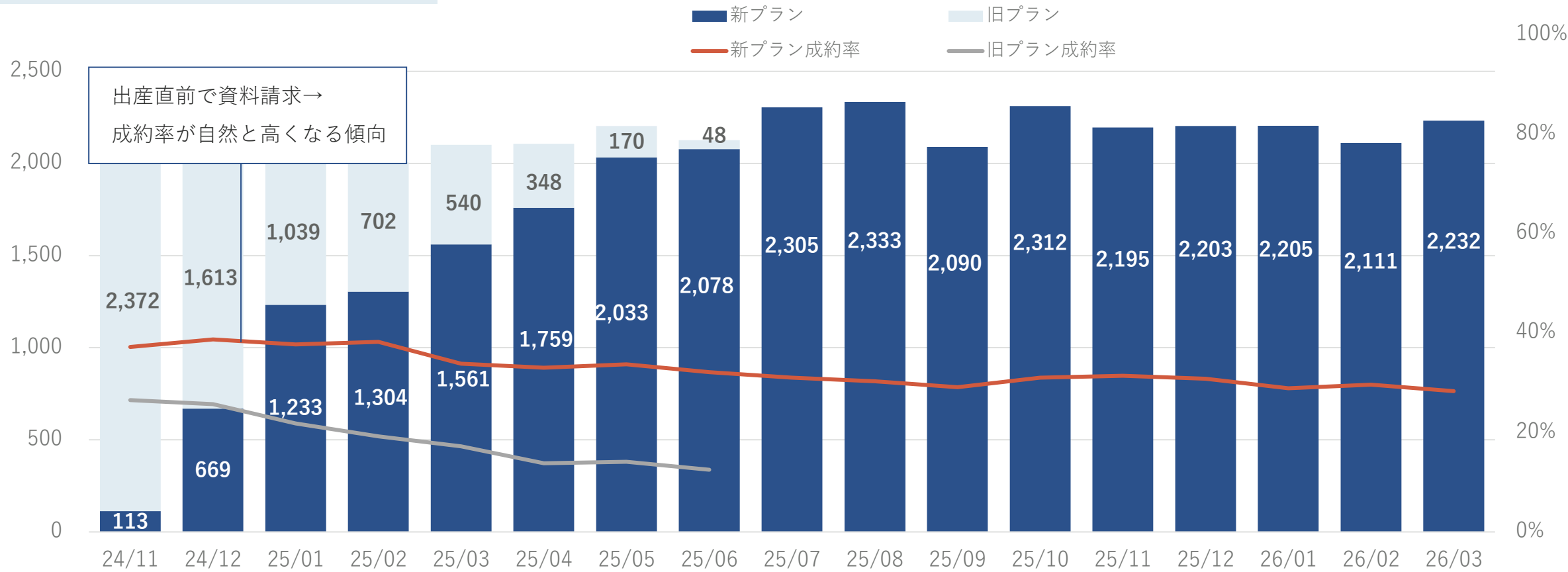
新プラン「HOPECELL」ローンチ、
新コンセプトで訴求するも不調

広告代理店の変更、
マーケティングの再構築

12/19~3/31において
最大66,000円分の
保管料無料キャンペーンを実施
資料請求数急伸

各月の出産予定者数と成約率

※該当月に出産予定日を迎える契約検討中または既契約の顧客の総数



出産直前で資料請求→
成約率が自然と高くなる傾向

新プラン成約率	37.2%	38.7%	37.7%	38.2%	33.8%	33.0%	33.7%	32.1%	31.0%	30.3%	29.1%	31.0%	31.4%	30.8%	28.9%	29.6%	28.3%
旧プラン成約率	26.5%	25.7%	21.8%	19.2%	17.2%	13.8%	14.1%	12.5%	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(単位：百万円)

	2026/03期 (実績)	構成比	2027/03期 (予想)	構成比	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	2,811	100.0%	3,100	100.0%	+288	10.3%
営業利益	202	7.2%	100	3.2%	△102	△50.7%
経常利益	217	7.7%	100	3.2%	△117	△54.0%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	155	5.5%	105	3.4%	△50	△32.7%
一株当たり 当期純利益(円)	15.44	—	10.32	—	△5.12	—

売上高 (対前期比)

+10.3%

営業利益

東南アジア事業立ち上げに伴う
先行投資を実施

中長期成長に向けた
先行投資フェーズ

- ▶ シンガポール事業の本格化を契機として「**国内事業の成長**」と「**東南アジア市場の開拓**」を当社成長戦略の2つの柱として明確化し、中期経営計画を策定
- ▶ 国内事業においては、**新規保管拡大と累積保管検体数の積み上がりによる継続的な保管料収益の拡大**を推進するとともに、シンガポール・インドネシアを中心とした**東南アジア事業を将来の収益の柱として確立**することで、中長期的な企業価値向上を目指す

(単位：百万円)		2026/03 (実績)	2027/03	2028/03	2029/03	2030/03
連結	売上高	2,811	3,100	3,800	4,600	5,500
	営業利益	202	100	429	740	1,000
	営業利益率	7.2%	3.2%	11.3%	16.1%	18.2%
国内事業	売上高	2,811	3,000	3,300	3,600	4,000
	営業利益	266	300	429	540	625
海外事業	売上高	—	100	500	1,000	1,500
	営業利益	△63	△200	0	200	375

成長戦略

国内成長 + 東南アジア展開で現在比 **5倍**の事業規模へ

+2.5倍

①国内事業の成長

国内市場シェア99%

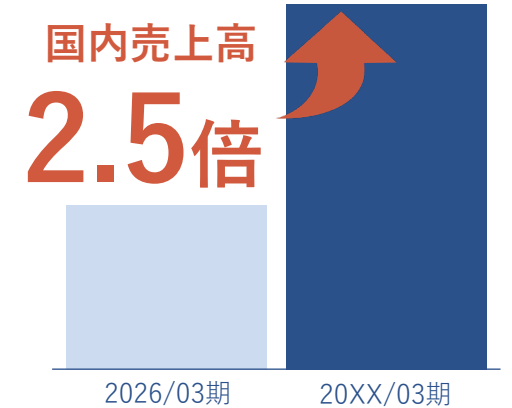
累計保管数11万検体

全国の医療ネットワーク

保管検体数 **20,000** 検体

保管率 **3** %

保管検体数の積み上がりが**将来保管料収益の拡大**に直結



+2.5倍

②東南アジア事業展開

- ▶ 2026年、東南アジア(シンガポール・インドネシア)へ進出
- ▶ シンガポール・インドネシア市場シェア50%目標

国内成長分と**同等の事業規模**へ



保管 + 活用 → 保管率向上のサイクルへ

細胞の 活用領域の拡大

既存の臨床研究、米国EAP、ファミリー上清®
眼疾患治療、自家iPS細胞、第二種再生医療

さい帯・さい帯血の 保管価値の変化

- 従来** 将来の備えとしての保管
- 今後** 活用を前提とした保管

さい帯・さい帯血の 保管需要の拡大

実際の活用機会の拡大により
保管率の持続的上昇

さい帯血 **活用中** ※ Expanded Access Protocol; EAP

臨床研究、米国EAP※

- ▶ 脳性まひ、自閉症スペクトラム障害

国内最大級の 細胞保管基盤

さい帯・さい帯血



累計保管数

11万 検体

さい帯(培養上清) **活用・研究中**

ファミリー上清®

- ▶ 累計契約数 **38件** (2026年4月末時点)
- ▶ 提携クリニック拡大
- ▶ さい帯保管 **12,000** 検体超

新たな眼疾患治療の開発

- ▶ 実験開始に向けて準備進行中

さい帯血 **サービス化準備中**

自家iPS細胞の製造および保管

- ▶ プロセス確立済

さい帯・さい帯血 **検討進行中**

第二種再生医療

- ▶ 医療機関と具体化推進(国内・インバウンド含む)

先進的な研究開発・臨床研究の着実な進展

さい帯血

- ▶ **自閉症スペクトラム障害**に対する自家さい帯血を用いた治療法の開発 (大阪公立大学)
- ▶ **小児脳性麻痺など脳障害**に対する自家及びきょうだいのさい帯血を用いた臨床研究 (高知大学)
- ▶ **低酸素性虚血性脳症 (H I E)**に対する自家さい帯血を用いた多施設共同臨床研究 (大阪公立大学、他)
- ▶ 臍帯血を用いた**自家iPS細胞**の製造及び保管プロセス開発と臨床応用に関する検討 (株式会社iPSポータル)



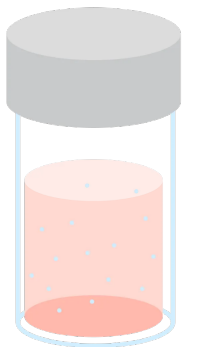
さい帯

自家さい帯由来の細胞を用いた**先天性形態異常 (口蓋裂等)**の組織を再生する治療法の開発 (東京大学)



培養上清

さい帯間葉系細胞由来培養上清を用いた**新たな眼疾患治療**の開発 (国際医療福祉大学、医療法人社団栄和会)



東南アジアさい帯血 banking 市場は構造的な高成長市場

出典：Credence Research (<https://www.credenceresearch.com/report/south-east-asia-umbilical-cord-blood-market>)

市場成長率

約**1,712**億円
(10.9億USD)

▶ 市場成長を支える背景

再生医療需要の拡大

中間層・富裕層の増加

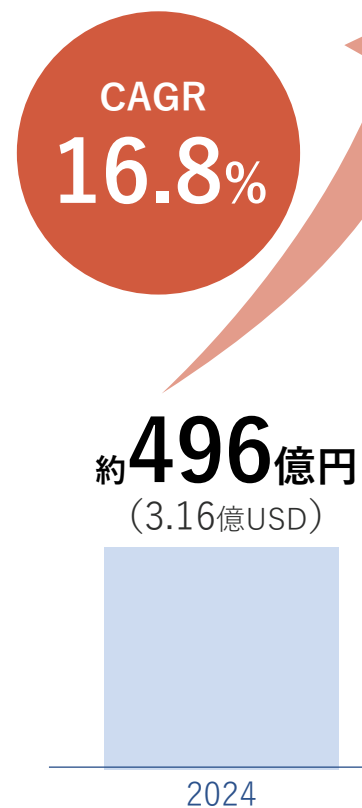
政府支援・医療制度の整備

▶ 市場構造

東南アジア市場の中心
高保管率・高単価市場

医療ツーリズム市場

人口成長・所得向上を
背景とした成長市場



1USD=157.05円換算
(2026/5/8時点MUFG TTM)



東南アジア主要市場でトップシェアを目指す

シンガポール

想定市場規模

6,000件

(出生数3万人×保管率20%)

高保管率・
高単価市場



インドネシア

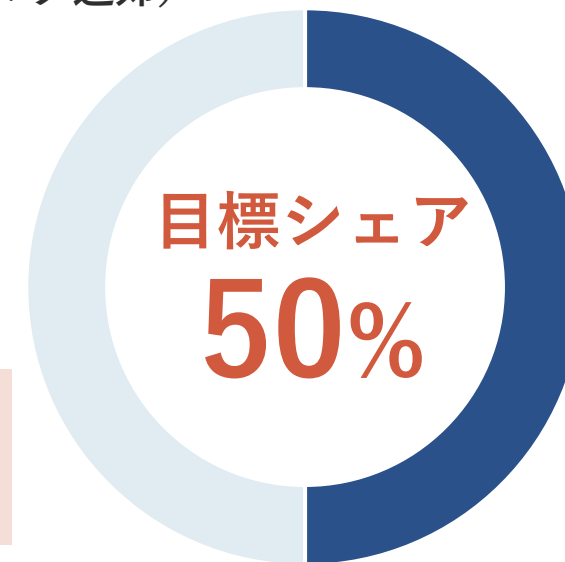
(ジャカルタ近郊)

想定市場規模

3,000件

(出生数30万人×保管率1%)

人口成長・所得向上
を背景とした成長市場



高単価市場と人口成長市場の両輪による中長期的な市場成長

2026年、東南アジア事業が本格始動

CPC物件外観

Photo courtesy of Mapletree Industrial Trust

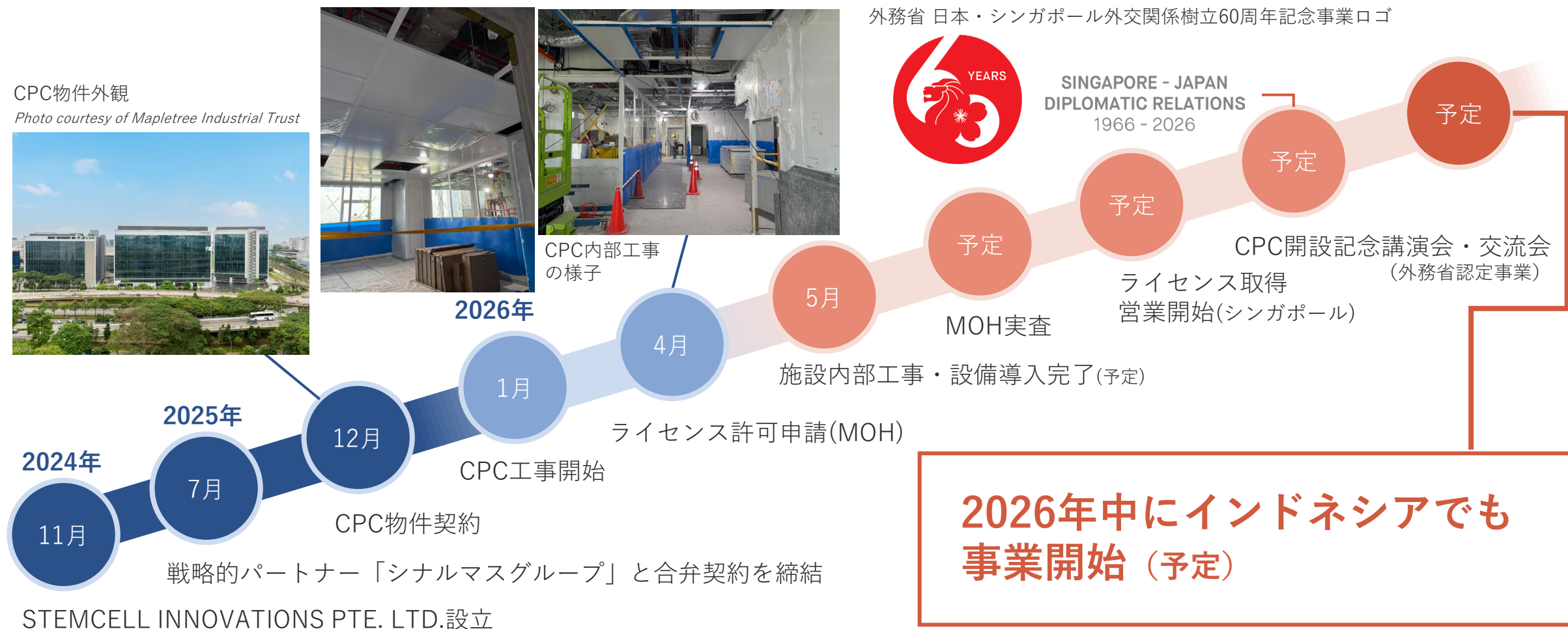


CPC内部工事の様子

外務省 日本・シンガポール外交関係樹立60周年記念事業ロゴ



SINGAPORE - JAPAN
DIPLOMATIC RELATIONS
1966 - 2026



将来見通しに関する注意事項

- 本資料は、いわゆる「見通し情報」 (forward-looking statements) を含みます。
これらは、現在における予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
それらのリスクや不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済情勢が含まれております。
- 本資料の当社以外に関する情報は、一般的に公知と考えられるものに基づいております。
- 本資料は、いかなる有価証券の取得の勧誘行為を行うためのものではありません。

株式会社ステムセル研究所

stemcell
INSTITUTE

ステムセル研究所